

『モロッコの思い出』



－フェズの水時計－

元駐モロッコ大使 広瀬晴子

2008年のある日BMCE（モロッコ輸出入銀行）基金理事長から、ラバトの日本大使あてに依頼状がきました。曰く、“フェズ1200年祭の本年の記念にカラウィン・モスク前にある水時計を修復して動くようにしたい、ついては日本から専門家を派遣していただけないだろうか、費用はこちらでお払いする”というのです。

早速どんなものか見に行ってみると、これはモスクの入り口の前というか、お向かいの建物の壁の上の方に取り付けられていた13個のタジン鍋からなる水時計で、約400年前に作られたけれど、200年前位から壊れていて動かないと言うのです。

更に水時計が取り付けられていた建物事態が傾いてきて危険なので修復作業に入っている。水時計は取り外して文化省に保管してあると言うので、文化省に問い合わせたら、それでは次の委員会が開かれるときにお招きしますと言ったきりでした。BMCE基金の理事長によると時計なら日本かスイスという訳で依頼状が届いたと言うわけでした。

面白い話だし世界最古の学校（マドラッサ）を持つ歴史の古い町フェズ、ユネスコの世界遺産にも指定されている古くは王朝が置かれていた、日本で言えば京都に当たるような町フェズ。不思議な迷路のような旧市街を持つ、何度行っても新しい発見のある町からの不思議な依頼でした。

今、北アフリカ、中東はチュニジアに始まった民主化の嵐が吹き荒れており、珍しく日本のマスコミでも毎日この地域のニュースが流れていますが、やはり日本からは遠い地域、分かりにくい地域というニュアンスでなんとなく北アフリカも一くくりのような扱いです。モロッコでもデモはありましたが、穏やかな非暴力的なものでプラカードを掲げて行進する程度のデモだったとの事です。いろいろ不満はあるけれど、1000年以上続いた王室で、現国王は47歳で貧困撲滅、家族法の改正等改革に努めているし、自身も婚約者を初めて公表し、一夫一婦制を実践していてなかなか人気の高い王様で、打倒王室という声は聞こえま

せん。そういう点では極めて安定していて日本に住んでいるモロッコ人たちは北アフリカは危ないといわれて困惑している様子です。

モロッコの王室は、最初の王朝（イドリス朝）が開かれたのが西暦788年、アッバース朝中央での勢力争いに敗れ逃げてきた、イスラム教の預言者モハメドの血を引くムーレイ・イドリスによります。その後808年にフェズに王宮を定め、その後イドリス朝以降紆余曲折はありながらもモロッコは独立王国として続き、1666年にアラウィー朝が誕生し今に至っています。

そしてアラウィー朝二代のイスマイル王が鎖国政策をとり、1912年にフェズ条約でフランスの保護領となるまで鎖国を続けたのです（その鎖国時代の終わりごろ1867-8年のパリ万博にモロッコも始めて参加し、これも始めて参加した日本幕府の代表と会った写真がモロッコの歴史の汎に残っています）。鎖国をしていたことにより、オスマントルコ等の侵略をふせぎ、またモロッコ独自の文化様式が発達したのです。ヨーロッパとアフリカを結ぶ地理的要所であること、豊かな農業国であることから、古くはフェニキア、ローマ時代から人々を引き付けながら、1912年から1956年の間、フランスの保護領だった時を除いて長い間独立を保っていたためもあると思われる、穏やかで誇り高い国民性を持つ国となっているのです。

そして1956年にマダガスカルに追放されていたスルタンを担ぎ戦った独立戦争に勝利し、近隣のマグレブ諸国が王制を廃止して民主化路線を取り独裁政権や軍事政権に苦しんでいる中で、王制をとり続けています。良くも悪くも王制による古い体質が残っている面もありますし、王制と言うとなんとなく古臭いイメージがありますが、政治的には安定しています。在位12年目の若いモハメド6世は、積極的に外国投資を誘致する政策を取ったり、貧困問題に取り組んだり、女性の権利を認めるイスラム教国では進んだ家族法に改正をしたりとモロッコの経済開発、近代化・民主化に力を入れています。

日本との関係でいうと、1956年に独立したモロッコを日本はいち早く認めたこと、日本の皇室とモロッコ王室の関係も良好なこと、日本の経済協力等も感謝されていて大変友好的で親日的です。

とは言ってもやはり遠く離れていることから関係はそれほど深くなく、一般的にはお互いあまり良く知らないというのが実情だと思われます。

特に日本人の目からはモロッコというと映画カサブランカの舞台となったエキゾチックな国、砂漠ややしの木に象徴される美しい景色、スークの珍しい工芸品（バブーシュというスリッパや最近流行しているタジン鍋等）といったところが一般的イメージではないでしょうか。

実際には日本は経済協力では2007年まではフランスに次ぐ第二の拠出国として、基礎生活インフラを始め地道な協力を進めてきており、モロッコには大変感謝されています。2000年代に入り平均成長率5パーセント以上の経済発展を続けている元気なモロッコですが、貧富の差は大きく、地方と都市部の差

も大きいこと、識字率が低いこと、出産時の母子死亡率が高い等の問題をかかえているのです。わが国の対モロッコ経済協力は青年海外協力隊員・シニアボランティアを始め定評があり、また分野別には漁業、生活基本分野のインフラ整備（水道、電気、道路、鉄道）、母子保健、教育、環境等多岐にわたり、有償援助、無償援助、技術協力などを組み合わせて相乗効果を生んでいます。また、サブサハラ・アフリカの国々を対象とした研修を日本（JICA）とモロッコが（研修所）がパートナーを組んで実施する三角協力も様々な分野で行われています。

経済分野では中進国に脱皮すべく、経済に力を入れているモロッコは、外資導入、外国企業誘致に熱心で、道路、鉄道、大規模港等の大型インフラ整備（中でもタンジエー地中海港は貨物取扱量300万TEUの第一期工事が2007年に開港し、他の北アフリカの国をうならせました。現在工事中の第二期工事が終わるとマルセイユ、バルセロナを抜いて地中海一の貨物港となる予定です）。また、太陽光発電等、自然エネルギーや水のプロジェクトにも熱心ですし、日本企業のアフリカへの進出の拠点としての可能性も大なので日本企業にとっても魅力のある国でしょう。

国際会議などでもモロッコはいつも日本を支持してくれています。IWC（国際捕鯨委員会）、国連の安保理の選挙でも常に日本に一票を投じてくれているのです。

そんな日本の友好国モロッコから頼まれたフェズの水時計の修復、果たせないままになっています。時計といってもカラクリ細工の技術が必要なのかなと思うのですが、どなたかいい人を紹介して頂けないでしょうか。詳しい御説明をします。